

「豊太郎は、なぜ手記を書いたのか」

〈はじめに〉なぜ、このテーマにしたのかというと、豊太郎が自分の苦しい経験や、自分の悪い性格をわざわざ長い文で手記に書くのは何か理由があつてのことだろうと思ったからだ。また、豊太郎は手記という形にして誰に伝えたかったのか知りたかったからだ。豊太郎の手記に書かれた過去の行動や性格と、なぜ手記という手段をとったのかという二点から考えていこうと思う。豊太郎は、自分の過去のエリスへの行動を後悔し、エリスへ自分の性格と事情を伝えることで、エリスを捨てて、日本に行ったことを言い訳にするために手記を書いたと言うことがわかる。

〈本論〉まず、264L11「余は幼きころより厳しさ庭の訓へを受けし甲斐に〜太田豊太郎というふ名はいつも一級の首に記されたり」から、豊太郎はかしこかったということが分かる。そのため、265L1「官長の覚え殊かりし」から、上司の信頼も格別であつたと読み取れる。でも、269L7「余が幼きころより長者の教へを守りて、〜人のたどらせたる道を、ただ一筋にたどりにのみ」から、豊太郎は勇気があつて精神したのではなく、人がたどらせたる道を一筋にたどっただけというのが分かる。つまり、豊太郎は勇気がなく、自分の意志を通さない人間だと分かる。また、288L3「我が弱き心は〜友に対して否とはえ答えへぬが常なり」や、284L4「余は我が恥と表さん〜耐忍してこれを実行することしばしばあり」というところからも、豊太郎は、味方の友人など、自分が信頼する気持ちを起こした人に、急にものを尋ねられたとき、断ることが出来ず、すぐに承諾してまう、つまり断ることの出来ない勇気のない人間で、信頼した人の言うことを信じ自分の意志を通さない人間だということと分かる。次に、294L14「我がともに東へ帰る心なきか、〜さることかしと聞きて落ちるたるとのたまふ」と天方に豊太郎が尋ねられ、295L5「ああ、なんらの特操たりとなき心ぞ〜と答えるは。」と答えてしまった。またその後も、296L8「我が脳中にはただただ我は許すべからぬ罪人なりと思ふ心のみ落ち満ち満ちたりき。」と書いてあるように、すごく悩んでいたと分かる。また、豊太郎は、エリスに日本に行くことを言えなかった。豊太郎が思い悩んだ結果、意識を失っている間に、相沢からエリスにそのことを伝えられた。ため、エリスはだまされたと思っている。

〈まとめ〉つまり、以上のことから、豊太郎は、勇気のなく。意志の通さない人間であり、そのために信頼している人の頼みを断ることが出来ないので、天方に「日本に一緒に帰らないか。」と尋ねたときも、信頼している友人である相沢のすすめもあつたため断れなかった。という事情をエリスに伝えたかったんだと思う。また、豊太郎は勇気がなかったため、エリス直接言うことが出来ず、手記という形をとったのだ

と思う。これからより、豊太郎が手記を書いた理由は、エリスへ自分の性格と事情を伝えることでエリスへの言い訳をしたかったのだと思う。